

みずほマーケット・トピック(2022年3月25日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週後半に122円を突破した。週初21日、119.25円付近でオープンしたドル/円は東京休場で取引参加者が少なく、動意に乏しい展開で119円台前半での小動き。海外時間では一時週安値の119.10円をつけた後、パウエルFRB議長が講演でインフレ急伸への懸念を述べ、必要に応じて通常よりも大幅な利上げを行う可能性について言及すると米金利が上昇、ドル/円も119円台半ばまで値を伸ばした。22日、ドル/円は、前日のパウエルFRB議長のタカ派的な講演内容を背景としたドル買いが継続、じり高に推移し、欧州時間に一時121円台を突破。その後小反落も120円台後半で底堅く推移した。23日、ドル/円はシドニー時間に高値をつけた後、株式市場の軟調推移や米金利上昇一服を受けてじり安の展開。海外時間では米2月新規住宅販売件数の市場予想を下回る結果に120円台半ばまで続落したが、ドル需要は底堅く121円台を回復した。24日、ドル/円は株式市場の堅調推移や米金利上昇に加え、日銀の片岡審議委員の目安容認発言にサポートされ急伸、一時週高値の122.41円をつけ、前日の高値を更に更新した。本日のドル/円は122.10円付近での取引となっている。
- 今週のユーロ/ドル相場は方向感のない展開。週初21日ユーロ/ドルは東京休場で狭いレンジでの推移が継続する中で、1.1045付近でオープン。オープン直後に一時週高値の1.1070をつけた後、パウエルFRB議長のこれまで以上にタカ派的な講演内容を受け米金利が急上昇、ドル買い優勢となり、ユーロ/ドルは1.10台前半まで反落した。22日、ユーロ/ドルは相次ぐFed高官によるタカ派的な発言に米長期金利が上昇、ドル買いが加速し1.09台半ばまで下落。その後は欧州株の堅調推移が支援材料となり1.10台半ばまで反発した。23日、ユーロ/ドルは欧州株の軟調推移が重しとなり、1.09台半ばまで値を落とすも、米金利低下や米経済指標の冴えない結果にドル売りが強まり、1.10台前半まで値を戻した。24日、ユーロ/ドルは米金利上昇に伴うドル買い圧力に1.09台半ばまで値を落とすも、その後はユーロ圏3月PMIの良好な結果に1.10台前半まで反発し強弱まちまちの展開となった。本日のユーロ/ドルは1.10付近での取引が継続している。

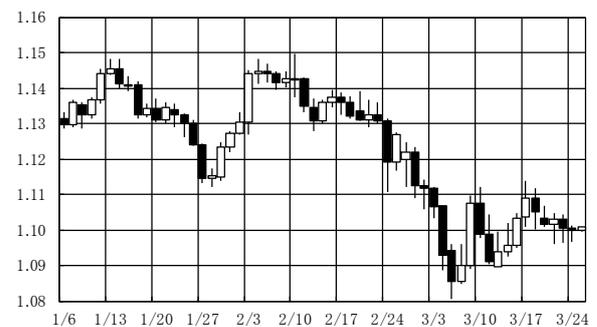
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		今 週				
		3/18(Fri)	3/21(Mon)	3/22(Tue)	3/23(Wed)	3/24(Thu)
ドル/円	東京9:00	118.50	119.26	119.60	121.34	121.14
	High	119.40	119.50	121.03	121.41	122.41
	Low	118.48	119.10	119.44	120.60	120.96
	NY 17:00	119.15	119.46	120.80	121.16	122.38
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1099	1.1043	1.1016	1.1028	1.1006
	High	1.1118	1.1070	1.1045	1.1043	1.1013
	Low	1.1004	1.1010	1.0961	1.0964	1.0966
	NY 17:00	1.1051	1.1017	1.1032	1.1001	1.0998
ユーロ/円	東京9:00	131.59	131.59	131.76	133.81	133.32
	High	131.95	131.97	133.32	133.82	134.58
	Low	131.20	131.40	131.69	132.37	132.98
	NY 17:00	131.67	131.62	133.26	133.32	134.58
日経平均株価	26,827.43	-	27,224.11	28,040.16	28,110.39	
TOPIX	1,909.27	-	1,933.74	1,978.70	1,981.56	
NYダウ工業株30種平均	34,754.93	34,552.99	34,807.46	34,358.50	34,707.94	
NASDAQ	13,893.84	13,838.46	14,108.82	13,922.60	14,191.84	
日本10年債	0.21%	-	0.22%	0.22%	0.23%	
米国10年債	2.15%	2.30%	2.38%	2.29%	2.37%	
原油価格(WTI)	103.09	109.97	109.27	114.93	112.34	
金(NY)	1,929.30	1,929.50	1,921.50	1,937.30	1,962.20	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、1日(金)に3月雇用統計が発表される。前回2月の非農業部門雇用者数は+67.8万人(前月比、以下同様)と市場予想(+42.3万人)を大幅に上回った。民間部門雇用者数は+65.4万人、政府部門雇用者数は+2.4万人の結果となった。民間部門雇用者数に関する内訳は、民間サービス部門が+54.9万人と1月の+42.4万人から加速した。余暇・娯楽業が+17.9万人、飲食サービス業が+12.4万人など行動制限措置の緩和の恩恵を受けた部門が伸びをけん引した。財部門は+10.5万人と1月の+2.4万人から大きく増加した。特に建設業が+6.0万人と1月の+0.7万人から改善が目立った。政府部門は1月の+3.3万人から上昇幅を減らした。失業率は3.8%と0.2%ポイントの改善となったほか、労働参加率(労働力人口÷生産年齢人口)も、62.3%と1月から0.1%ポイント良化した。また、長期失業者数(27週以上の失業者人数)は前月から▲4.7万人と引き続き減少傾向が見られている。平均時給は前月から横ばいの推移となった。なお、3月の結果についてブルームバーグの事前予想では非農業部門雇用者増加数を+45.0万人と見込んでいる。失業率については、3.7%、労働参加率については62.4%の予想となっている。この他、経済指標関連では1日(金)に3月ISM製造業景気指数の公表を控えている。
- 本邦では、1日(金)に日銀短観(3月調査)が発表予定。前回12月調査では、全産業を対象とした指数が2と新型コロナウイルス感染拡大以降、初めてプラス圏に浮上した。大企業製造業業況指数(DI)が18と9月調査から横ばいながら、非製造業DIは9と7ポイント改善した他、中堅中小企業の結果も製造業・非製造業とも9月から改善が見られた。一方で、先行き判断に関しては、大企業、中堅中小企業とも横ばいまたは悪化すると見ており、供給制約の長期化や資源価格の高騰及びオミクロン株拡大に伴う行動制限措置の再開などがリスク要因と捉える動きがあった。現に1~3月期はその期間の殆どでまん延防止等重点措置が敷かれたほか、ロシアのウクライナ侵攻によって資源価格は前回調査時点と比較しても騰勢を強める格好となっている。生産者物価(PPI)の伸びが40年来の水準に到達するものの、消費者物価に転嫁出来ていないことが見受けられる中、企業マインドは弱含むことが懸念される状況にある。なお、ブルームバーグの事前予想では大企業製造業DIを12、非製造業DIを5と見込んでいる。その他、29日(火)には2月失業率及び有効求人倍率の公表を予定している。

	本 邦	海 外
3月25日(金)	・2月企業向けサービス価格指数	・米2月中古住宅販売仮契約件数 ・米3月ミシガン大学消費者マインド(確報)
28日(月)	—————	・米予算教書発表
29日(火)	・2月有効求人倍率/失業率	・米3月コンファレンスボード消費者信頼感指数
30日(水)	・2月小売売上高	・米10~12月期GDP(確報)
31日(木)	・2月鉱工業生産(速報)	・ユーロ圏2月失業率
1日(金)	・日銀短観(3月調査) ・3月製造業PMI(確報)	・ユーロ圏3月消費者物価指数(速報) ・米3月ISM製造業景気指数 ・米3月雇用統計

【当面の主要行事日程(2022年4月~)】

ECB 政策理事会 (4月14日、6月9日、7月21日)

日銀金融政策決定会合 (4月27~28日、6月16~17日、7月20~21日)

FOMC (5月3~4日、6月14~15日、7月26~27日)

市場営業部・金融市場部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2022年3月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年2月分) 「貿易黒字の消滅」から「貿易赤字の定着」へ
2022年3月18日	週末版(GDPデフレーター)に注目すべき局面～「デフレの原因はインフレ」という理解～
2022年3月17日	FOMCを終えて～短期決戦型の利上げ。効果は24年以降～
2022年3月15日	円安相場の考え方～「三步進んで二歩下がる」～
2022年3月14日	3つの円安要因～「成熟した債権国」が終わる時～
2022年3月11日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「戦下の正常化」に着手～)
2022年3月9日	経常赤字は新常态なのか?～「債権取り崩し国」へ～
2022年3月8日	賃金上昇が遅れるユーロ圏。「嵐の前の静けさ」か?
2022年3月4日	週末版
2022年3月3日	ロシアのデフォルトはシステミックリスクになるのか?
2022年3月2日	ECB政策理事会プレビュー～安全通貨としてのユーロ～
2022年3月1日	日銀のロシア中銀取引禁止について～保有資産の実態～
2022年2月28日	SWIFT遮断にまつわる論点整理～7つのQ&A～
2022年2月25日	週末版
2022年2月24日	年初来の為替市場総括～円キャリー取引復活の兆候?～
2022年2月22日	孤立する日本株市場～「新しい資本主義」の誤解?～
2022年2月21日	ECB利上げの有無について～非公式政策理事会を前に～
2022年2月18日	週末版(「50年ぶりの円安」が意味するもの～「経済より命」路線の結末～)
2022年2月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年1月分) 円相場の構造変化～変わる基礎収支の姿～
2022年2月16日	ラガルド講演を受けて～認める金融政策の無効性～
2022年2月15日	本邦10～12月期GDPを受けて～依然大きな内外格差～
2022年2月14日	「開始前から終盤」の様相を呈するFRBの正常化プロセス
2022年2月10日	週末版(ウクライナ問題～ドイツの自傷行為は止まらないのか～)
2022年2月8日	為替は金利の代わりに政治へアラームを鳴らすか?
2022年2月7日	米1月雇用統計～労働参加率上昇にも注目すべき～
2022年2月4日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利上げは最速7月か?～)
2022年2月2日	沈む円相場の全体感と日本の現状
2022年2月1日	オーバーキル懸念が色濃くなる米国経済
2022年1月28日	週末版
2022年1月27日	FOMCを終えて～いつまで株価を無視できるか～
2022年1月26日	IMF見直し改定について～リスク満載の世界経済～
2022年1月25日	孤立感が強まるドイツ～ショルツ政権の迷走～
2022年1月24日	夜明けは近いのか、遠いのか～鳴かないカナリア～
2022年1月21日	週末版(インフレに変化を強いられそうなECBの政策姿勢～ドイツ10年金利は約3年ぶりにプラス圏へ～)
2022年1月20日	米実質金利上昇とドル相場への影響
2022年1月19日	日銀金融政策決定会合～「悪い円安」をどう処理するか～
2022年1月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年12月分) 続きそうな「日本回避」～「市場の声」は届くのか～
2022年1月17日	既に漂うオーバーキル懸念～「最後のテーマ」は?～
2022年1月14日	週末版
2022年1月13日	円安と物価高と国民感情の近況について
2022年1月12日	「嵐の前の静けさ」を警告するIMF
2022年1月11日	信じて貰えないECBのハト派姿勢
2022年1月7日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～「正常化レースの進捗」≠「為替の進捗」～)
2022年1月5日	欺瞞を晒したEUの天然ガス・原子力グリーン認定
2022年1月4日	2022年、円安・ドル高シナリオの死角は「日銀の正常化」か?
2021年12月28日	2022年の為替概観②～「2つの正常化」と新興国～
2021年12月27日	2022年の為替概観①～2つの「正常化」が作る世界観～
2021年12月24日	週末版
2021年12月23日	円相場の近況～5年ぶり値幅、最低の取引量、感染拡大～
2021年12月22日	無視はできない需給面のドル安リスク
2021年12月20日	2021年に浮上した「悪い円安」論を再考する
2021年12月17日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「ラガルド・バズーカ」と利上げ見直し～)
2021年12月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年11月分) FOMCを受けて～今度はインフレが「一時的」であるリスク?～
2021年12月15日	「安い日本」を体現するアパレル生産日本帰郷報道
2021年12月13日	41年ぶりの企業物価上昇～圧迫される企業収益～
2021年12月10日	週末版(いきなり外交的試練に直面するドイツ新政権～北京五輪という「踏み絵」～)
2021年12月8日	2022年も「日本回避」がテーマか～首相演説を受けて～
2021年12月7日	過去最大のインフレ率を前にECBはどう動くか
2021年12月6日	弱い雇用統計とFRBの正常化プロセスについて
2021年12月3日	週末版(FRBの政策運営をどう考えるか～本邦の正常化プロセスは23年以降に～)
2021年12月2日	変節し始めたECB～減らないPEPP、隠れる本音～
2021年11月29日	アフター・メルケル政権誕生へ～新連立の見どころ～
2021年11月26日	週末版
2021年11月25日	再び浮上する「合意なき離脱」リスク～6年目の混乱～
2021年11月24日	ドル/円、115円台突破を受けて～色濃い日本回避～
2021年11月22日	欧州の感染再拡大の影響をどう見るか?
2021年11月19日	週末版
2021年11月17日	10月貿易統計を受けて～補強される円安シナリオ～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年10月分)
2021年11月16日	不安視される米消費者心理の悪化
2021年11月15日	今年2度目のマイナス成長となった日本
2021年11月12日	週末版(本邦10月国内企業物価指数を受けて～可視化され始めた円安&資源高の怖さ～)
2021年11月11日	ドル/円相場、5年ぶりの値幅は大相場の前兆か?
2021年11月10日	欧米7～9月期GDPについて～大きすぎる日本との格差～
2021年11月9日	FOMCと米10月雇用統計を受けて～今後の見方～
2021年11月5日	週末版
2021年10月29日	週末版(ECB政策理事会を終えて～冷静なインフレ分析と盛り沢山の12月会合～)
2021年10月28日	2%を突破したユーロ圏のインフレ期待と利上げの今後
2021年10月26日	供給制約下の利上げは正当化されるのか?
2021年10月25日	ECB政策理事会プレビュー～12月に向けた露払い～
2021年10月22日	週末版(ドイツメンバー、4度目の退場～バイトマン独連銀総裁の辞任報道を受けて～)
2021年10月20日	本邦9月貿易収支を受けて～需給も円売り材料に～
2021年10月19日	ドイツ連立政権発足へ前進～クリスマス前にも?～
2021年10月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年9月分) 欧州委員会、初のグリーンボンド発行を受けて